

## 第1回富良野市総合戦略有識者会議 議事録

- 開催日時 平成27年9月1日(火) 午後2時00分～午後3時40分
- 開催場所 富良野市保健センター会議室
- 出席者 <委員> 能登会長、荒木委員、松井委員、菊地委員、清水目委員  
鎌田委員、田村委員、三瀬委員、千谷委員、南條委員  
原田委員、小川委員、飯沼委員、西本委員、藤田委員  
(計15名)

※欠席 松村委員、太田委員(計2名)

<事務局> 若杉総務部長、鎌田保健福祉部長、原経済部長  
山内商工観光室長、外崎建設水道部長、遠藤教育部長  
西野企画振興課長、入交企画振興係長

### 1. 開会(午後2時00分)

### 2. 辞令交付

会議に先立ち、市長より辞令を交付。

### 3. 市長あいさつ

- ・本日、委員の皆様にご辞令交付をさせていただき、改めてご協力をお願いします。
- ・まち・ひと・しごと創生法に基づき、地方創生を目指すため、総合戦略を策定し、国に提出していかなくてはならない。
- ・地方創生に向けて、富良野市をどうつくっていくか。特に、人口減少問題をどう解決していくかであり、総合計画後期基本計画の策定と併せて、地方創生の枠組みをどうとらえていくかである。
- ・また、少子高齢化を迎えた今日において、まちづくりの基礎は人口であるため、若者や女性が働ける場所をどう確保していくかが課題となる。
- ・有識者会議では、5年間の総合戦略を検証する中で、委員それぞれの立場での意見を拝聴し、地方創生に向けたまちづくりに活かしていきたい。

### 4. 委員紹介

事務局より、各委員を紹介。

### 5. 会議の役割と運営について

#### (1) 富良野市総合戦略有識者会議の役割について

事務局より資料2に基づき説明。

#### (2) 富良野市総合戦略有識者会議設置条例について

事務局より資料3に基づき説明。

※以降は、設置条例第5条に基づき、能登会長が進行。

### 6. 議事

#### (1) 人口、及び経済に関するデータ分析について

事務局より資料4に基づき説明。

(2)総合戦略策定に関する経過と今後のスケジュールについて  
事務局より資料5に基づき説明。

(3)質疑応答・意見交換

【委員】

- ・健診等に来ている若い母親と接している保健師の意見はアンケート等に反映されているのか。そうした場の若い人の意見集約も必要ではないか。
- ・“市長と語ろう地域懇談会”は参加者が少なすぎるので、行政の持っている市民対話の窓口がもっと動かなければ、本当の声は拾えないのではないか。

【会長】

- ・意見を聞くことが将来の状況づくりにプラスに働かなければならない。
- ・1つの状況づくりの意見として、内部で検討していきたい。

【委員】

- ・若い人が結婚や出産について、自分で判断しなければ、人口は増えない。
- ・若い人は少子化とは思っていない、高齢者が多いと思っているのではないか。
- ・若者への単なる過剰サービスになってはいけない。
- ・働く場所よりも、住む場所が重要ではないか。
- ・若者が、自発的に判断できる施策でなければいけない。

【委員】

- ・子育て世帯と接点を持つファミリーサポート事業に携わる中で、相談する場所がない、人がいない、といった声を聞く。
- ・子育てサポート体制が、うまく循環する仕組みをつくっていかなくてはならない。
- ・元気な高齢者を活用していく方法も考える必要がある。

【委員】

- ・個人的に若い人を結び付けることをしている中で、遠くから来る女性は、来た時に自分の仕事を活かせる場所があるか悩むことがある。
- ・富良野は若い人たちから見れば、家賃が高いとの声を聞く。

【委員】

- ・具体的な施策に主語がないとダメ、誰が実施主体となるのかを明確にする必要がある。
- ・根底にあるのは経済の問題があり、雇用の場や起業できる環境など若い人が働く場をつくる方法が重要である。

【委員】

- ・人口動態から就職口がないのが端的な問題であると思う。
- ・実現性は低いかも知れないが、人口流出を未然に防ぐために専門学校や高等教育機関があれば、改善が図れるのではないか。

【委員】

- ・学校教育で取り組めるとすれば、子どもたちに富良野の良さを伝えていかなくてはならないのではないか。

- ・今年度から3年間の事業指定を受けた中で、小・中・高が連携するキャリア教育では、ふるさと愛がキーワードとなっており、将来、富良野に戻ってきたいと思える気持ちを育むことが、学校教育の担う部分になるのではないかと。

#### 【委員】

- ・富良野に人は戻ってきているのに、それ以上に出て行っている要因は何なのか。
- ・富良野の女性の結婚に対する意識は低いのはなぜなのか。
- ・他市町村の議論の中でも、施策も大事だが、子どもたちが戻ってくるためには、学校教育での基本的な取組が重要との意見がでてきている。
- ・他市町村の状況から、農業後継者対策や移住推進を図る上で、住居対策は重要となっている。

#### 【委員】

- ・人口減少をくい止めるためには、地方創生を行わなければいけない。
- ・人口減少対策は、住み続けること、産んで育てることが必要となる。
- ・住み続けるためには、一定の収入がなければいけない。一定の収入を得るためには、経済活性化しかない。経済活性化には、圏域でまわるお金を増やすしかない。圏域でまわるお金を増やすには、域外にでるお金を減らす、外貨を稼ぐ、製造と生産による付加価値を高める。これらの観点から、おのずと施策は見えてくるのではないかと。
- ・観光入込客を見たときに、フラノマルシェ以外の施設はほとんど落ち込んでおり、新たな観光をどうつくっていくのか。
- ・産み育てるためには、阻害要因をどう取り除くか、子育てのためには何が必要かを見えやすく、わかりやすくしていく必要がある。
- ・今後、細かな議論をしていくためには、ワーキンググループも必要となってくるのではないかと。

#### 【会長】

- ・課題は大きいですが、施策を打ち出す中で、一步一步前進することが、まちづくりにつながっていくのではないかと。
- ・次回からはテーマを絞りながら議論していき、各委員の皆様には、それぞれの立場で意見をいただきたい。

## 7. その他

なし

## 8. 今後の予定

- ・事務局より、第2回富良野市総合戦略有識者会議を10月9日（金）午後2時から富良野市役所大会議室で開催する旨を連絡。
- ・また、各委員において、総合戦略に向けた具体的な施策・事業等の構想があれば、1ペーパーに取りまとめ、10月1日（木）までに市企画振興課まで提出してもらうことを連絡。

## 9. 閉会（午後3時40分）